

# 南郷道が歴史の道百選に選定されました

歴史の道百選は、歴史的、文化的に重要な古道や交通関係遺跡の保存・活用を促進するため、残存状況や他地域との関連などを基準に文化庁が選定しています。1996年に78か所が選定された後、本年新たに36か所が追加選定となり、全国の114件の古道が「百選」となりました。これには四国遍路道や熊野参詣道などの著名な古道も選ばれています。

この追加選定に、本市域を通る南郷道が入りました。県内では日立市の「陸前浜街道～十王坂越」に次いで2件目の選定となります。

南郷道は、水戸から瓜連、大宮、大子を経て奥州棚倉方面へ至る古道です。その原型は、南北朝時代の古文書に、奥州白河、八槻（棚倉町）、瓜連を結ぶ「依上道」として見ることができ、少なくとも西暦1300年代前半頃には成立していたようです。

江戸時代以後は、五街道の付属道である水戸道中（江戸～水戸間の道、現在の国道6号）から枝分かれ

して北西方向へ向かう脇往還わきおうかんとして、人馬の通行のほか、年貢米や紙、こんにゃく、木材などの輸送に利用されました。

峠や川沿いの道などの難所が多いことで知られていた南郷道は、大名の通行に使われることはありませんでしたが、久慈川水運を利用できる利便性から、物資の輸送には欠かせない道でした。

茨城県の北西山間部を縦断する南郷道は、限られた平地を耕作地として最大限に利用するため、川沿いや山の麓ふもと、または山の上などに展開しました。そのため近代の宅地開発の影響をほとんど受けず（一部では線路や道路拡張のため消滅）、現在も良好な状態で残る場所が数多くあります。

今回の追加選定では、南郷道のうち、近代化の影響を受けずに残った、当時の面影を残す市内の3か所が選定されました。

## ①和田

野上から北上し枇杷川を渡り、和田・大久保方面へ向かう坂道。台地の南側を巻くように急な上り坂となりますが、傍らには文化10年の西国坂東秩父札所巡拝塔や馬頭観音などの石仏が数基立っており、かつて街道として利用されていたことがわかります。



## ②館

山方の館地内、山方城跡の中城と外城の曲輪を区切る空堀の中を南郷道が通っています。山方城は久慈川に面した台地上にあり、この台地の下は久慈川の流路の変遷で安定的な道が開設できなかったと考えられます。戦国期、城が機能していた時代には、城跡の中を街道が通ることで、人やモノの移動を管理することができたと考えられます。

また、この道の南側には、「嘆願橋」やかつて常安寺の五輪塔があったとされる「五輪坂」推定地があり、山方城の歴史を感じながら歩くことができます。



## ③盛金峠（殿山峠、堀切峠）

加藤寛斎が『常陸国北郡里程間数之記』において、南郷道のうちの「大難所」として取り上げています。久慈川を足下に見る山の斜面を通る道筋で、盛金峠は巨大な岩盤を削りとってまさしく堀切のように加工しています。峠の先は急に落ちる下り坂で、馬の脚がすくんでがけ下に転落したとの記述もなすけず。残念ながら東日本大震災で峠の北に続く道が崩落し、西金方面へ抜けることはできなくなりました。

この南郷道については、合併前の旧山方町の郷土史研究団体「山方町文化財保存研究会」が、南郷道の道筋を後世に伝えようと、町内各所に案内板を設置するなどして保存と普及を進めてきました。研究会の調査成果は、南郷道の全行程を比定するための基礎データとして重要な役割を果たしました。

歴史の道百選の選定を機に、南郷道を実際に歩き、史跡として安全に活用していただけるよう、今後は整備などにも配慮していきたいと思っております。



■問い合わせ■ 文書館 ☎52-0571